

# おっかん の宝

3

詩犬 ヌネ



# ゆめのおくで、ひとやすみ…

夜みる夢の 奥の世界

へんてこだらけの星々のあいだに、  
小さな島が 浮いていました。

彷徨うものをどこかへ運ぶ 鳥の群れ  
彼らが立ち寄る 小さな家

これはそこに住む  
小さなお茶汲み君の  
おはなしです…



# きゃらくたーず



←ツモル やわらかマイペースな主人公



←ハチ ツモルになつく筋肉獣人さん



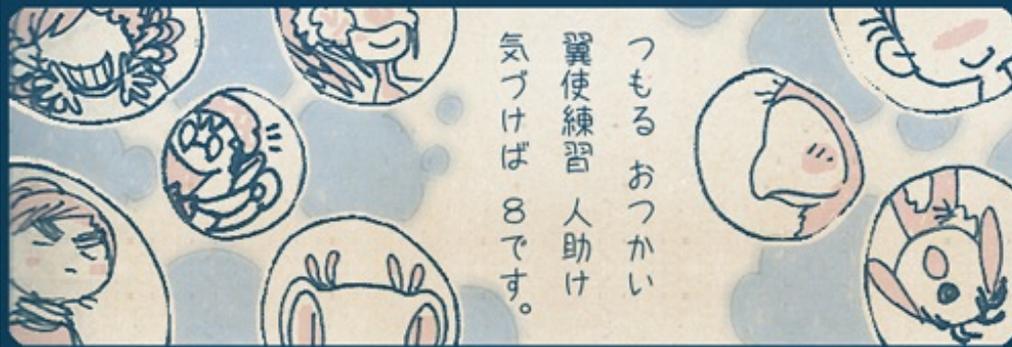
←ノット ランプに住む幽体魔法使い

それでは、  
ゆる夢的  
ふしぎひと休み…

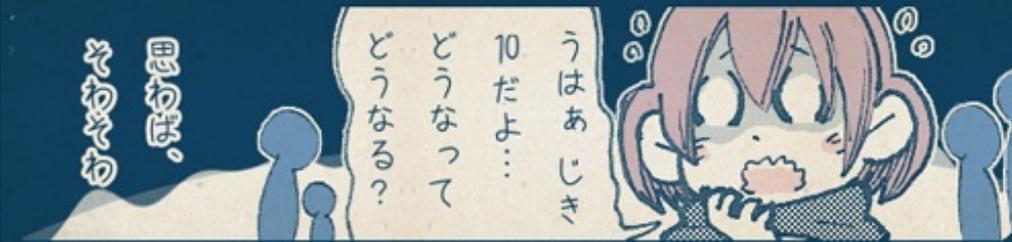




ほんよくをおもう



つもる おつかい  
翼使練習 人助け  
気づけば 8です。



思わば、  
そわそわ

うはあじき  
10だよ…  
どうなって  
どうなる？



い、いや  
出来るかでなく  
なるんだ…



これまで  
ツモルに つもった  
いろいろ

どういう世界  
出るだろう？

へんてこな  
夢の奥夢  
そのかたすみ…

# 知と鳥

翼使の仔  
ツモルよ

翻翼の練  
捗りは如何に？  
忘れず報告を

はっ  
はっ  
はいっ！

魂を運ぶ鳥見習い  
運びや手助けって、  
むずかしい…

何が新しく  
必要な

翼使…  
わたしは  
何時まで？

開花すると全体が発泡  
する植物を加工。  
微炭酸で気分も  
すっきり爽快！

## 水泡茶

鳥と子の  
ひととき  
です。

え？あ  
なんと  
なく！

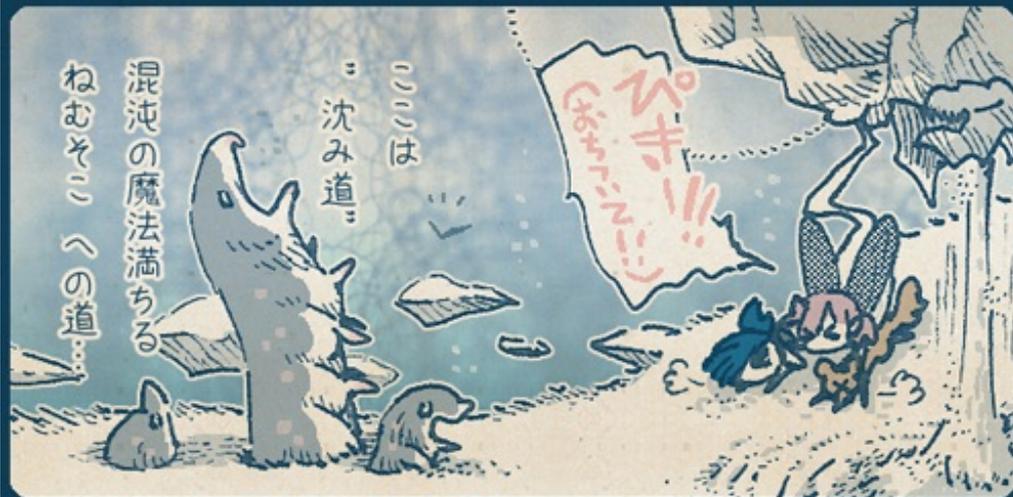
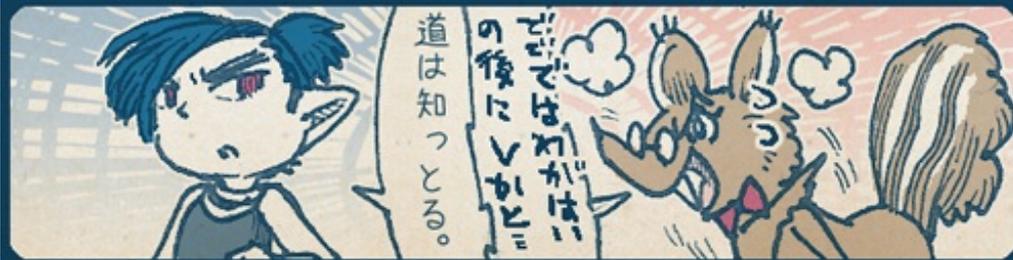
有難う…  
君何故  
私の体調を







あちこちそっち











つもるもよう

ツモル今日は  
ぼおっつと  
しています。



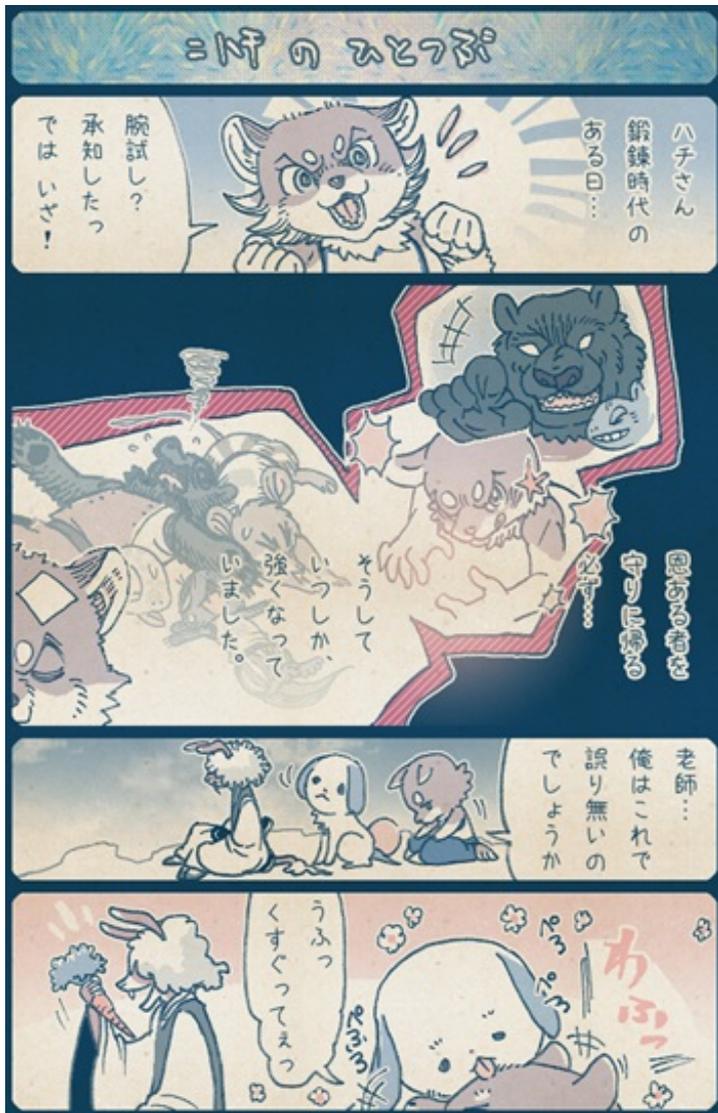
ツモルにできること  
ツモルにしかできないこと  
なんだろう...?

できるできない  
後悔はいつも後から

やわらかな  
ひとときです。



...と思いつつ  
時の合間



へんてこしーずん

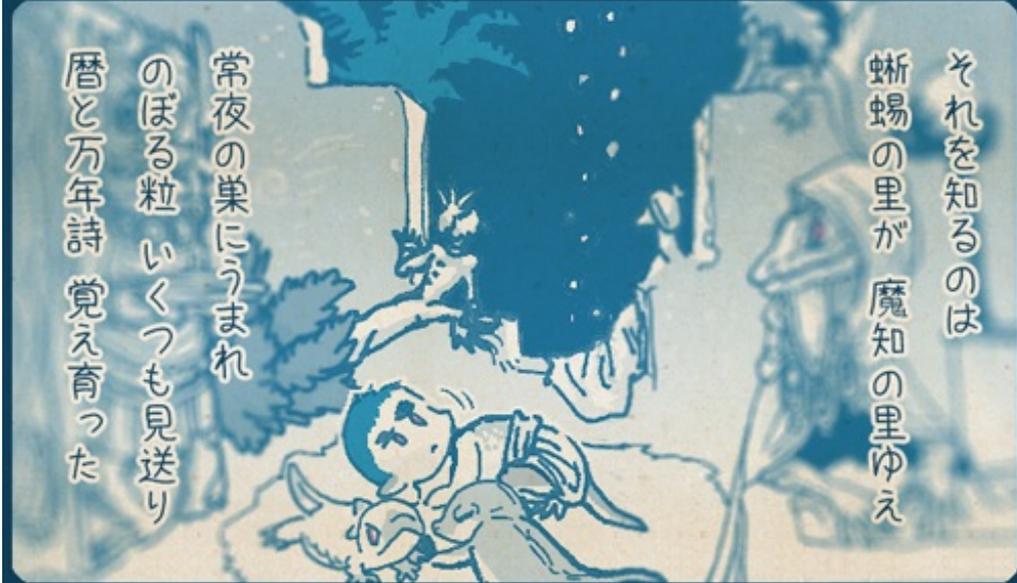








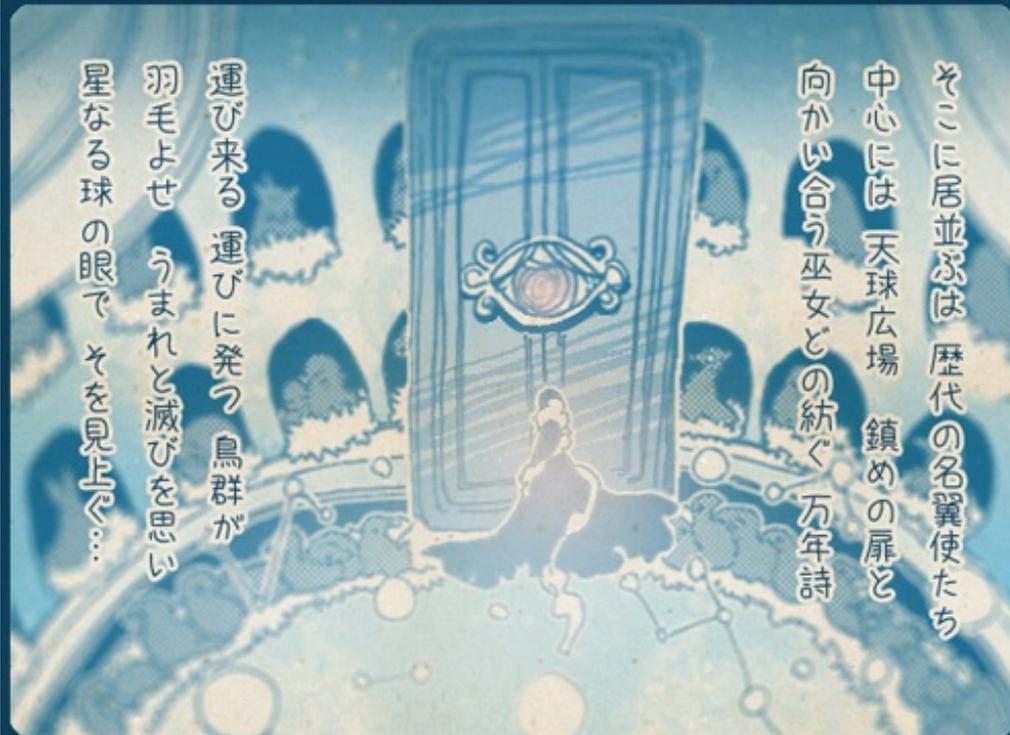




つきのとう



そういえば  
月の塔まで  
行ったんだ。  
翼使の本拠



そこに居並ぶは 歴代の名翼使たち  
中心には 天球広場 鎮めの扉と  
向かい合う巫女との紡ぐ 万年詩

運び来る 運びに発つ 鳥群が  
羽毛よせ うまれと滅びを思い  
星なる球の眼で そを見上げて…



…だそうだよ 僕は  
空酔いで寝てた。

ツモル 憧れの地  
一つ 増えました。

りすのみち



そら と でんせつ

鳥のこない日  
せつかくなので  
空みる ツモル



さまようものに  
驚かなくなった  
風が吹くと  
うたがきこえる  
風ふかなくても  
はねうごく  
鳥への はばたき  
うれしいけれど  
他の種族には  
変な子かも？

たましい呼び  
草と食む 青い獣が  
闇色の鳥を捕え  
光色の鳥が彼女を  
救ったと



ルシノ そういえば  
いつだったか



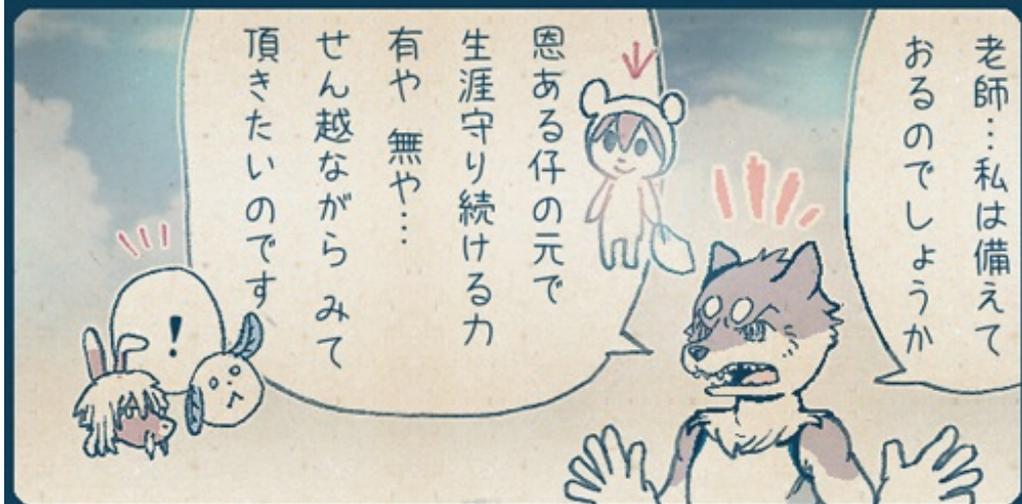
すべてが  
生きて  
ふわふわ  
流動する  
その中の  
見習い翼使  
ツモルです。

ふう

うしのこごころ



# ハチおもう



つもる はこぶ

森の茶葉おつかい  
帰りに出会いました。



運ぶんだ

ぼくが

今こころ  
ぼくしかか...

運んでいくよ

そこまで

あるんだって

丁度と機会

世界には

もう大丈夫

怖くないよ

すねてた仔  
元気に鳴いて  
飛び去りました。



みこどののきぐ

せん  
いけま



はじめての  
運びかけ  
報告しました。

わーごめん  
なさいっ早く  
運ぼうとしてっ



か弱い魂に化けて  
鳥を食らう魔物も  
いるのですよ  
今のあなたでは危険  
すぎます！



…はい…

焦らずとも  
日々は翻翼なのよ  
急いで墜つまま  
心失わば闇…



堅琴のような  
声響いた日



ときどきと  
ぺろぺろ

あしいし

気づけば  
こんなで

あ、今  
夢の中だと  
思う中



あっちだよ

ちがうこっち

そっちほうそで

どっちにいくの？

うごめくような

声たすねて

乾いた笑い 遠く



ぼくがどうでも

あの仔いた

その確か必ず

翼使の確かに



おだん!

足かけて

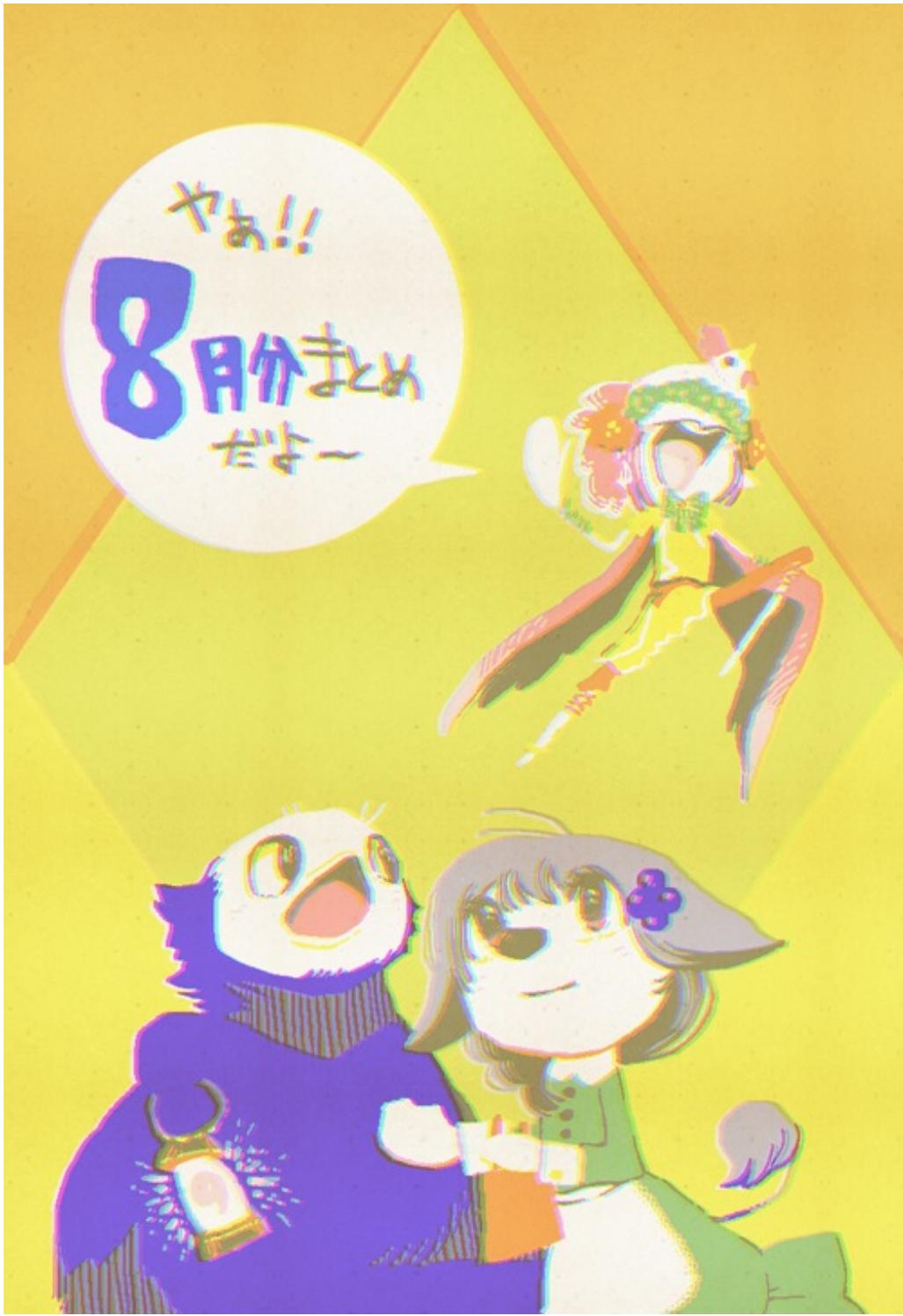
転んだ石

それらもまた

一粒ずつ...







つもる みち

お茶汲みくん  
落ち着いてきて  
ミスも 段々  
減ってきました。



ツモルは 近頃  
いい顔をしている

これで健康武闘派  
翼使になれば、俺も  
嬉しいよ

何から教え  
ようかな…



いやいや  
私にも 考えが…  
かれには風の術の  
素養が  
あります  
基本を一通り学べば  
より魔を知る翼使  
となるでしょうな。



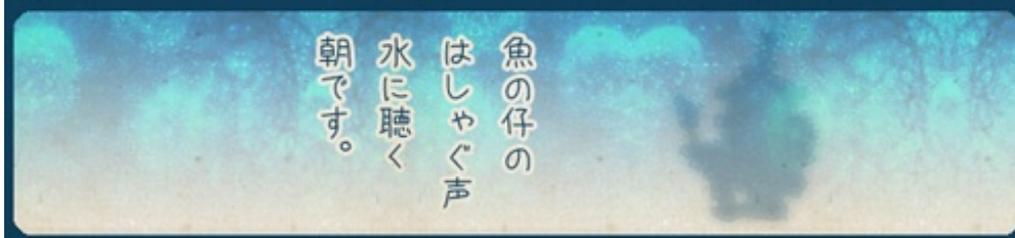
…で、ですが  
私ども 一体  
ツモルくんの  
何でしょう？

俺は  
保護者。



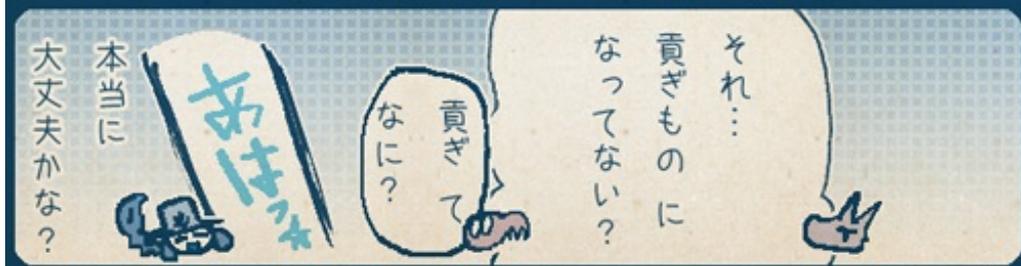


ことたまご





あかりとノット







# とおひろおさそい

貴方は陽の民…  
何用ですか？



ヤア！仔犬さん  
君達雲の上へ  
来てみないか？  
素敵なお所だよ



その雲に乗って  
お散歩だつて  
できちゃうよ



毎日柔らかかな雲で  
快眠したくない？

おいしい食べ物も  
永遠に尽きない  
獣仙たるきみが  
暮らすにふさわしい  
楽園なんだ。



おまた



# あおをみる



迷宮探求  
ノットさん  
ある日...



お前：  
やはり変物  
なぜ  
盛わぬ？

うおおつ  
私はノットの  
あなた様！  
フアッ！



まみえて どうする  
そは光たりえるか？  
何を望む  
この憂いの大怪に...



灯りから  
冷たい風  
ひと吹き  
しました。





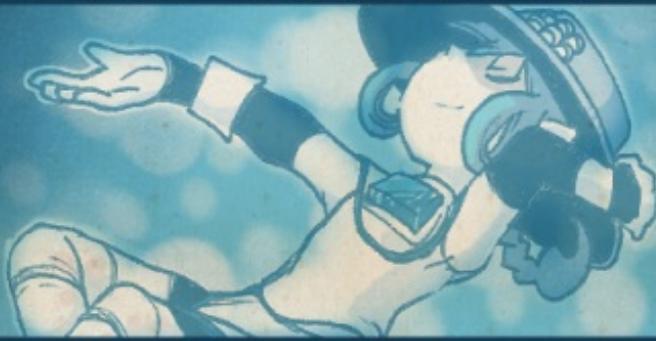
# あととかて





# めいとあん

ツモルの  
ともだち



ノットさん  
へんてこ透けた  
魔法使い

うそこけ  
：いやうん



ご存知で？  
記憶は一種の  
生き物なのです。

本当かうそか  
不明な物知り…

：そうかあ  
青い獣さん  
近そうで遠いんだ  
いまお茶の湯気  
送るよ！



お早う

子粒ずの  
です。つ



へんてこ  
島の朝











# すけるまえ

意味を問う  
長い彷徨いの旅  
やがてあらゆる  
憂いにかわつた



獣は歩いた  
生きた体を  
抜け出たとき  
から

見たかった  
聞いたかった  
他にない青い獣  
息づく地だから



空の子歩いた  
広がる迷宮  
望みが散るのを  
感じたときでも

昔陽気な  
友がくれた  
お気に入り石  
こころを鎮める  
輝きを放つ…



粒と果てる  
そのとき

へんてこノットさん  
今日も独自の元気で  
うろほろ中です。



ねがいなにかな？

# ねがい なにかな？

山の上の  
迷宮から、  
謎の熱気  
出ています。

なぜだ  
空の民

お前なぜ  
そこまで…  
わしに何を  
望むのだ。

ふはは勿論  
あなた様をお守り  
するのです

陽の矢や月の  
運びからねの  
運びの2匹で  
そよの冥府を  
憂いませう！  
作りませう！

おまっ

まく…  
いいや  
間に合ってる。

ノットさんの  
思いの丈  
すばしくしました。



# & だけいま

灯りの中の迷宮  
行き帰り

ノットさんは  
ぼうぜん中…



鳥の子  
ツモルよ…  
注意なさい

知らない  
魔物の…

迷宮に  
など…

うう…  
すみま  
せん…



見習いお茶汲み  
日々学ぶツモル



接ぎの島  
帰って  
来ました。

# ノット&2

あ  
あ  
あのとき  
ああ出来たら  
ノットさん  
まだまだ  
ううん中...



柔らかくて  
へんてこな雑談  
しています

ハチとツモル  
いつもどおり

ごときは  
はんとき

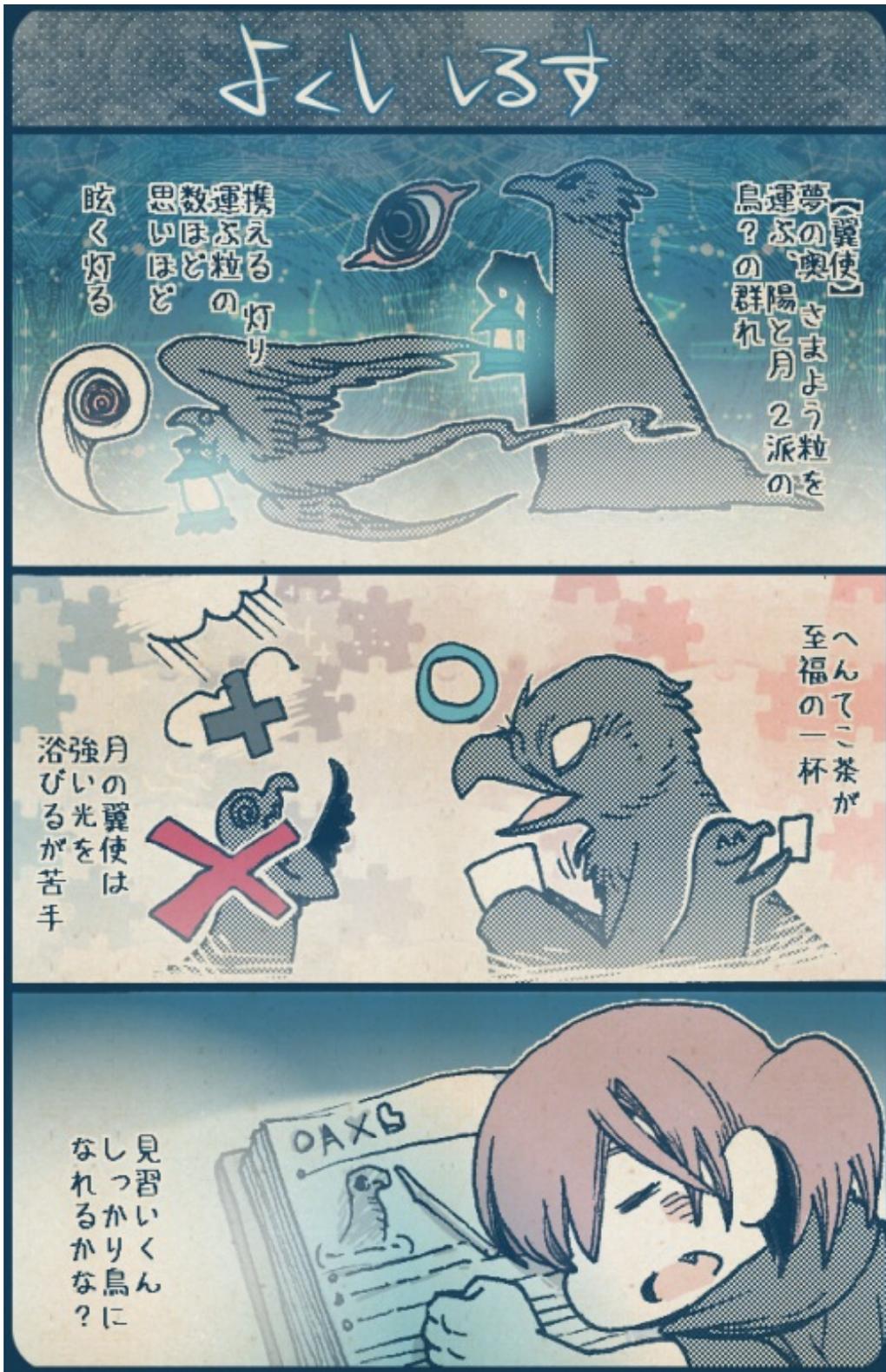


泡粒が  
呆然の身に  
親しげに沁む  
いままは  
そも彼方

不安と憧れ  
問う日々  
彷徨い



...で  
あの迷宮  
一体何?





9 月の  
まとめです..





# きみはだれ？

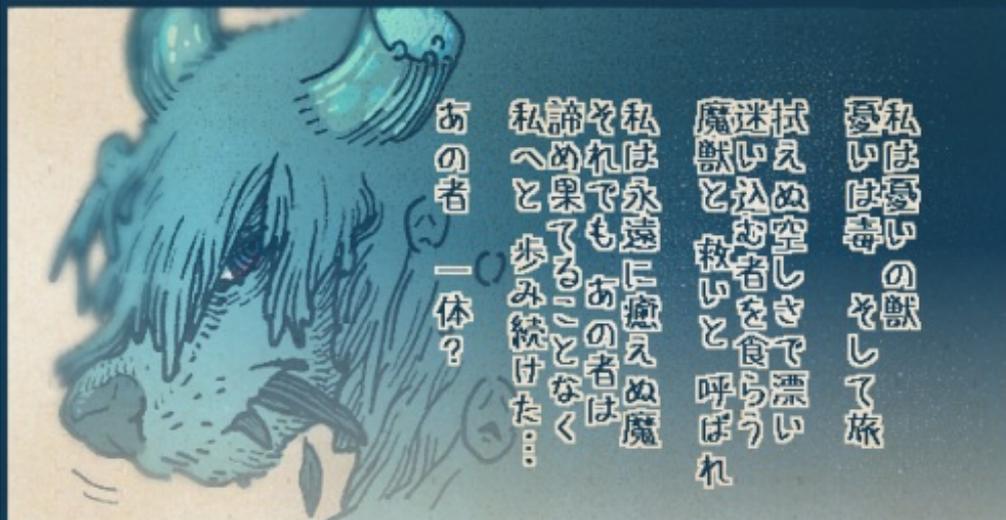


ふしぎの  
ある人物を  
思い出して  
います。



憂い満ちる  
わが庭を

なぜあの  
空の民は  
瞳に輝かせ  
歩いたか？



私は憂いの獣  
憂いは毒 そして旅  
拭えぬ空しきで漂い  
迷い込む者を食らう  
魔獣と 救いと 呼ばれ  
私は永遠に癒えぬ魔  
それでもあの者は  
諦め果てることなく  
私へと歩み続けた…  
あの者 一体？



牧野 見下ろす  
お山の上です。





# 陽の鳥たち











# ノットなう

青い獣どの：  
雲越しに見た色より  
さらに遠い青色  
そしてあの迷宮  
まこと憂いとは  
魔法のようだ

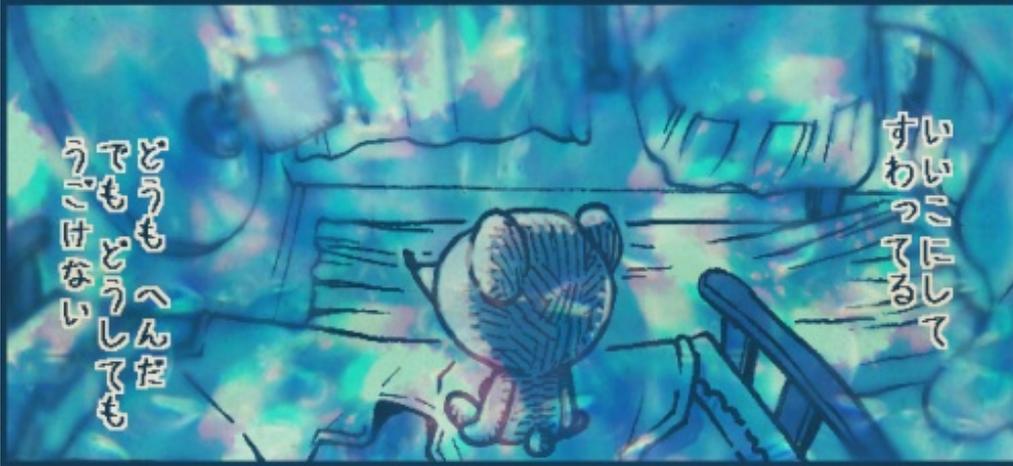
私は漂う変物

変物にしか  
できぬもの  
拵えよう

不安定な  
鳥に私に  
道と事実  
それらは粒  
粒と魔法は  
使いよう  
なのですね…

ところで失礼  
青い獣どのを  
ご存知で？

ののこえ

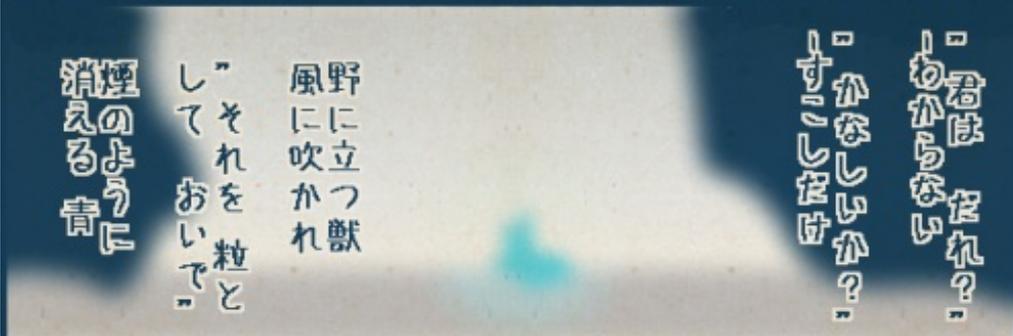


すいこに  
すわって  
るして

どうもへんだ  
でもどうして  
うごけない



だれか、と  
よんだら  
だれかが  
低く長く  
うなつたよ



「君はだれ？」  
「わからぬい」  
「かなしいか？」  
「す」したけ

野に立つ獣  
風に吹かれ  
「それを粒と  
しておいで」  
煙のように  
消える青



まあ夢は  
もとより奇妙  
なものだが…  
しかし迷宮の  
魔法やも？

ん…  
そうか  
何やら腹が減る  
のもそれかな？

# 陽とうしのこ

牛の子の野に  
今日は誰かが...



ここで通信石  
落としてね!  
この娘が届けて  
くれたんだ。

何話かわか  
せてくれる  
かな

迷宮や  
巨人さん  
訊かれる  
かな

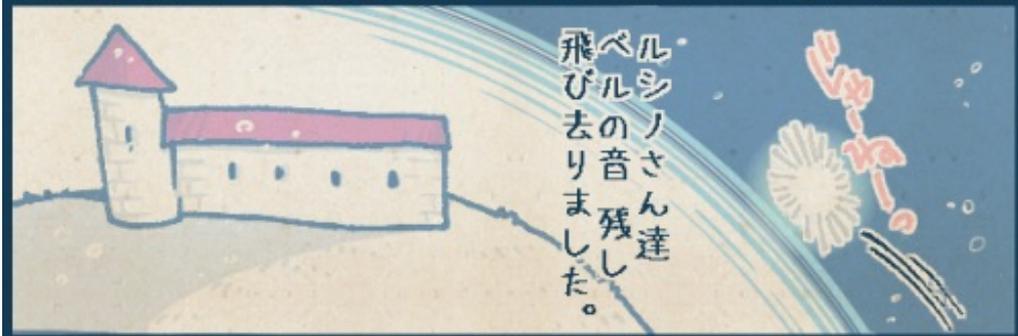
あはーい

ラグさーん  
ちーず  
下さいなー!

私モ  
カキ!



# といあう



ルシノさん達  
ベルの音残し  
飛び去りました。



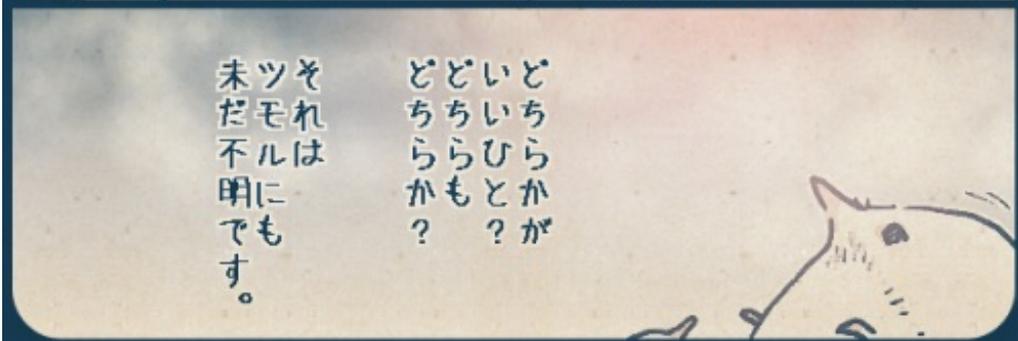
いやあ驚いちゃった  
話をするの上手で  
ないから...

ぼくもよく  
言いたいこと  
ずれるよ



あの巨人さん  
悪い人なのかな  
魔物って  
何だろうね

馴染む所が  
それそれなのかな  
眩しい方と  
底知れない方と



どちらかが  
どっちもど  
どっちもど  
どちらか？  
それは  
ツモルにも  
未だ不明です。





# ハチとこ



夜空の子と犬  
ノットさんの  
お話しています。



なんだか：  
思わぬ所まで  
歩いてきたな  
2頭ともさ

色んなひとと  
会ったね  
ハチとだから  
この毎日に  
来られたよ。



何度も同じ景色  
どこだかわからない  
張り付いたように  
動けないまま

開かない窓と  
たなびくカーテン  
細かい形も  
はっきり覚えてる  
それが「わんだ



いつかの  
記憶？  
かもしれない

夢に来て  
暮らす子と犬  
しずかな  
夜の散歩です。







# そのもの



この道具で  
星やさまよう  
ものの呼び声  
たどれます  
だから僕も  
運びに……

その前に、だ  
ッモル……おま  
え  
青い獣の迷宮に  
入ったのだと……？



獣の名は  
カントリオス  
夢奥に憂いを  
もたらす巨艦で  
名のそれ以降は  
陽にも記述が無い  
力の遠く及ばぬ  
古き魔の一頭  
なのだ

かの者は  
両の鳥他  
寄り解かんとする  
あらゆる粒を  
食い伏せてきた  
運ばれもせず  
射られもせず



でも  
お茶目な所も  
有ったのですよ

獣の謎は  
そを知るはずかな  
ものの心のみ知る……



響く  
思い出の  
さえずり  
昔むかし  
かな？

じきとこと



運び未だの  
見習い君

せめて何か  
その何かを  
思案中です。

月の翼使は  
彷徨うもの  
運ぶ…

僕とこの  
耳の道具で  
何が出来る  
かな？



歩く野から  
びりびり音  
地形方角  
他の翼使  
びりびりが  
示す「ここ」



一瞬 いった  
強く 鳴った  
そして 景色

歯車の山に  
現れた何か  
なんだろう？



にしてもよ  
どしたかね  
あゝあなた  
さゝあつて

朝新です。



# ハチうかべる

飛ぶ練習を  
見守る ハチ

ツモルくん  
変わった空  
を滑っています

憑かれた翼使  
度々みた

彷徨うものを  
運ぶ航路

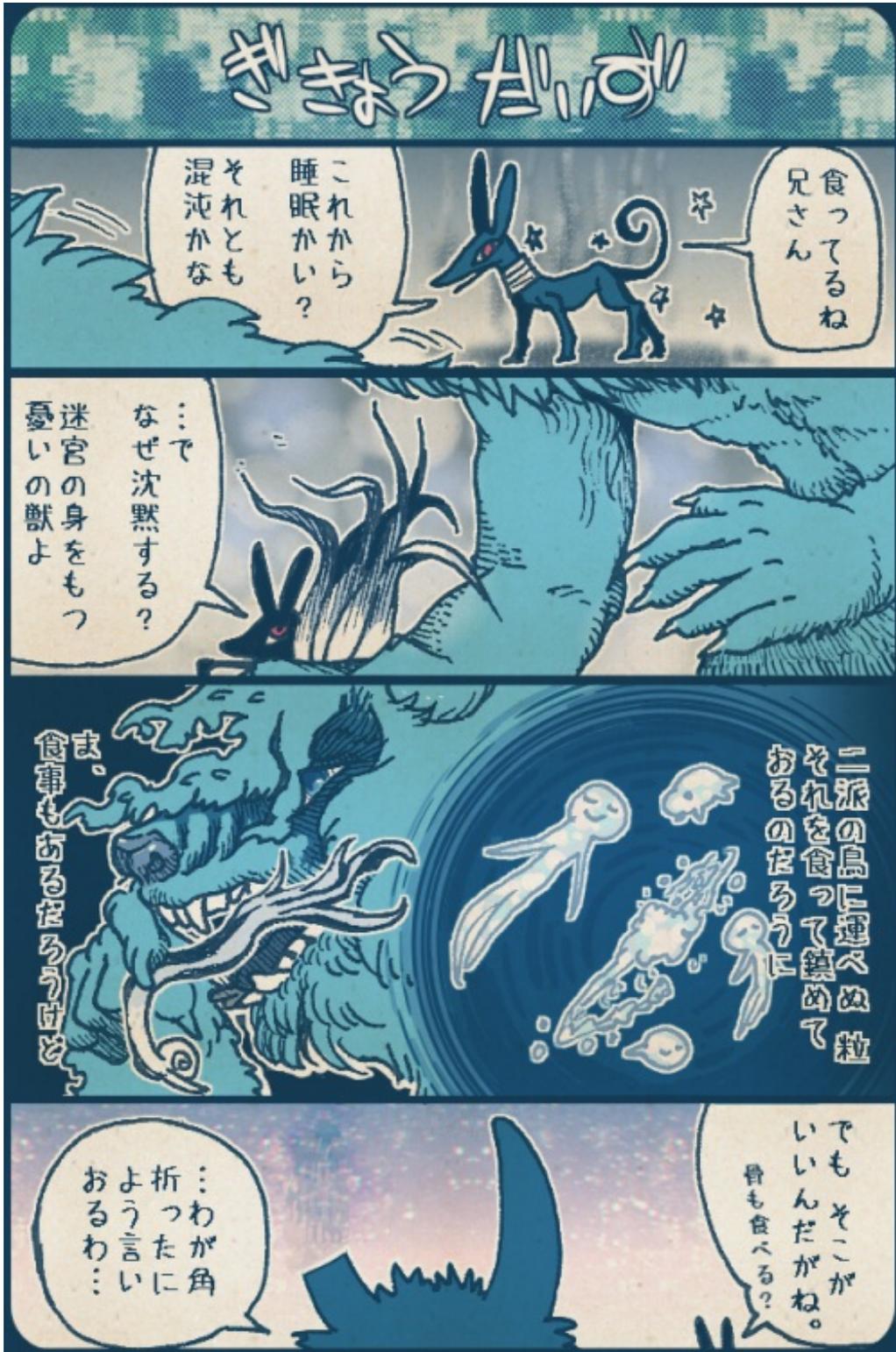
消えた個は  
次が担つて  
数を保つて

だんだんの日々  
ツモルの先分らない  
やっばり気がかり…だが  
それがツモルの道なら

それは  
俺の道  
なんだ！

わくわく尻尾の  
犬さんでした。





# なりくるもの



月の翼使  
ひと休み処  
道具越したと  
様々な声が



魚だったもの  
虫だったもの  
その粒 漂う  
床や壁の すきま

大地だったもの  
樹木だったもの  
思い出 囁く



「君しってる  
くまだったね

青い 妙なのも  
君しってるみたい  
小さいけれど  
確かな 粒だよ



他の翼使とは  
違う機能の  
ようです。

あの...  
おたか...  
2杯...  
せす...  
い...  
ま...

# すきまのと

あれ  
ここは  
どこかな？

翼使見習い  
ツモルくん  
飛ぶ訓練  
おわり！

君は  
まあ  
いずれ  
それと  
けあう？

「ようこそ  
迷宮へ」

「きみは  
きみで  
いなくて  
よくなるよ」

「ここは憂いの迷宮  
青い獣が  
食べてくれるよ  
憂い わすれるよ」

ぼく  
帰る。





お話ぶろぐの、トップ絵でした。ノットさん楽しげ...

## おまけ2 つもる てい～しーずんず③

---

1.

ツモル：きょうは涼しく、氷茶にしてみたよ。

ハチ：おっふ氷だぁ！かきこきぺろぺろっ

翼使：ハチ君、氷茶はとけゆく氷で出すお茶なんだが...

ノット：ふふふ、氷なら私が出せますから。それっ

ハチ：おっふ氷だぁ！かきこきぺろ

ツモル：めっ！

2.

ハチ：うわぁ、何だこの茶？真っ青だなぁ

ツモル：こういう紅茶なんだ。海みたいな色だね～海見たこと、ないけど...

...あれ、ノットさんいない。 ノットさーん？

ノット：（な、なんて素敵な青色...いかん愛おしすぎて霧状になってしまうっ）

翼使：よーツモル、あいてるー？...ってイヤーッなんかいるっ！

ツモル：あ、ノットさんそこかぁ。

3.

ツモル：今夜は、月見茶をいれてみました。

ハチ：泡の星はたくさん見えるけど、月どれだ？

ノットさん：ははは みなまで言いなさるな。

翼使a：まぁ。お茶からのぼった湯気が月のように丸くなってる。

翼使b：光っておるのう。ほほう、星までまとって...

ツモル：それでは、おやすみあれ。

ハチ：あぁ待て、一緒に茶を飲もう、ツモル。

ノット：そうです、せっかくですし。

ツモル：わはっ……うんわかった！今お茶と栗アイスだしてくるっ！

一同：（あとで食べようとおもってたなっ、栗アイス…）

## おつかいツモル③

<http://p.booklog.jp/book/108008>

どうもどうも、ユネです。  
夢奥色々、でて参りました。  
ツモルくんの歩のたりくねくねですが、  
それもまた、だいじな粒なのやも知れません。  
(ああっわしも のたりくねくねだなあ...)

あと1巻分で「またこんど」  
ぶろぐではまた新たなお話がはじまります。  
ごゆるりと、へんてこなひとときを...

※作品中、5本ほど小さい画像のがありますが、  
当時パソコンが壊れて手元に大きいデータがないものです。ごめんなさい！  
(ツモル④は、2016年12月頃 up 予定です。)

著者：謡犬 ユネ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yuneutainu/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/108008>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/108008>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ